

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

日時：令和8年2月10日（火）
午前9時30分から11時30分まで

場所：静岡中央高校 中会議室

参加者

委員：出席6人
校長 副校長3人 教頭3人 事務長 主幹

配付物

「学校経営報告書（自己評価）」【定時制・通信制】
「学校関係者評価実施用紙（会議等用）」【定時制・通信制】
「成果と課題（分掌・教科の反省）」【定時制・通信制】
その他補足資料

1 校長挨拶

高校再編の動向のなかで県立高校を2040年までに現在の89校から50～60校程度に削減する方針が示されており、3月には静岡・清庵地区の「グランドデザイン」が発表される予定である。本校は定時制・通信制を合わせて約1,900名の生徒を抱える大規模校であり、多様な生徒や社会人に対応した教育機関として中心的な役割を担うことが求められている。

今年度最後の会議として、1年間の研究や課題を振り返り、委員からの助言を得ることで今後の学校運営に活かしたいとしていきたい。

2 校務報告（現状と課題等） 及び自己評価

令和7年度の学校経営計画の達成状況と評価、および次年度に向けた展望について、資料を基に報告が行われた。（資料参照）

主な報告項目

（定時制）

1. ICT教育の推進
2. 多様な生徒背景に応じた教育相談・支援体制
3. 進路指導と外部連携
4. コンプライアンスの徹底

(通信制)

1. 学習活動の現状と単位修得の課題
2. ICTの活用とオンライン教育の進展
3. 教職員の意識改革とDXの推進
4. 進路指導の成果とキャリア教育の展望

3 意見交換・質疑応答

1. 防災教育と避難所としての機能

委員からの質問： 本校は地域の避難場所として指定されているのか。また、夜間の生徒がいるが、災害発生時に帰宅困難となった場合の宿泊や防災備蓄品の現状はどうなっているか。

学校側の回答： 本校は一時避難場所に指定されており、今年度は地域の方を招いてマンホールトイレの設置訓練なども実施した。災害発生から3日間程度、生徒が留まれる備蓄はあるが、基本的には地盤の関係もあり速やかな引き渡しや帰宅を優先する方針である。夜間部生徒への対応については、まだ課題があると認識しており、防災計画を改めて協議中である。また、体育館を一時避難所として開放する準備はあるが、学校教育の早期再開とのバランスを慎重に判断したい。

2. 生徒の意識調査とデジタル環境

委員からの質問： アンケートで「入学して良かった」という回答が86.6%と高い一方で、残りの約1割のネガティブな評価の内訳はどのようなものか。また、スマホ利用時間が4時間以上の生徒が6割を超えているがその指導状況はどうか。さらに、図書資料へのデジタルアクセスコンテンツ等の整備状況を伺いたい。

学校側の回答： ネガティブな回答の多くは、元々この学校が第一志望ではなかったという思いを抱えているケースが多い。しかし、最初は不本意でも、通い続けるうちに「来て良かった」と変化する生徒が大半である。

スマホ利用時間については、現状はほぼプライベートな利用（SNSやゲーム）と認識している。デジタル図書については、ランニングコストがかなりかかる試算があり、導入には踏み切れていないが、図書室を「カフェ」として開放するなど、まずは紙の本に親しむところからスタートし、デジタルとの両立を模索している。

3. 地域連携と科目等履修生の再開

委員からの質問： 地域住民が授業を共に受ける「科目履修生」の制度について、再開の予定はあるか。多くの高齢者が再開を待ち望んでいる。

学校側の回答： コロナ禍で一時中止していたが、通信制課程では継続しており、定時制課程についても来年度から再開したいと考えている。町内会の回覧板などを通じて周知をお願いしたい。

4. 避難所運営における感染症対策

委員からの質問： 避難所として、体育館以外のスペース（感染者専用の部屋など）を確保できないか。インフルエンザなどの感染症が広まれば避難所として機能しなくなる。また、地域の事情を含めたBCP（事業継続計画）を策定してほしい。

学校側の回答： 学校教育の再開が第一ではあるが、地域の方々の期待も理解している。現在、学校に備蓄物資がほとんどない状況も含め、地域の要望を取り入れたBCPの策定について検討していきたい。

5. 就職支援とキャリア教育

委員からの質問： 最近は正社員ではなくアルバイトを求める若者が増えている印象だが、高卒求人現状はどうか。また、早期離職を防ぐための対策は？

学校側の回答： 高卒求人は原則として正社員採用を勧めている。早期離職やミスマッチを防ぐため、静岡商工会議所と連携した1年次からのインターンシップ（職業体験）を企画している。単に行き先を決めるのではなく、自己理解を深め、自分の力を発揮できる場所を見つける「キャリア教育」を計画的に進めている。

6. ゼミ活動と探究学習

委員（元教員）からの質問： 本校特有の「ゼミ（クラス）」活動について、教員によって指導の差が大きいと感じていた。現在の「総合的な探究の時間」との関連や、メディアラボの活用状況はどうか。

学校側の回答： 水曜日の「ゼミ」の時間を活用し、探究学習を組織的に進めるスキームを構築中である。昨年度からは文化祭で探究活動の中間発表や作品展示を行うな

ど、活動を可視化している。また、生徒がテーマに基づいてゼミや担任を選択するシステムを大切にしつつ、どのゼミでも一定の指導が受けられるよう平準化を図っている。

4 学校経営目標に対する学校自己評価について

1. 学校関係者評価の実施（事務連絡）

委員に対して「学校関係者評価」への評価方法と提出期限を御案内する。

5 閉会挨拶（校長）

静岡県が進める高校再編計画という「大きな流れ」が来ている中で、学校運営協議会の機能をフル活用したい。来年度も引き続き「本校のあり方」について委員から御知恵を借り、学校と地域一体となって学校運営に取り組んでいきたい。